2017.4.20
vol.56

シネマ・ド・りぶらの

コラム・ド・シネマ

映画を読む

4/20『バグダッド・カフェ』

変なオバさんがやってきて、みんながちょっとだけ幸せになる物語　K.M.

今回上映の作品は、「登場人物の誰かに強く共感したり」とか、「迫力のある映像に魅せられたり」とか、「観るとみるみる元気になる」とか、そういう映画ではありません。淡々と話が進んでゆくにつれ、段々と引き寄せられ、のめり込んでいき、最後は不思議と心が温められている、そういった作品です。

日本では 1989 年にシネマライズで初公開されて大ヒットし、当時のミニシアターブームを代表する一作となりました。その後も幾度となくリバイバル上映され、TSUTAYA 企画の『100 人の映画通が選んだ本当に面白い映画』に組み入れられたりして、未だに新しいファンを増やしている伝説的な作品です。ジェヴェッタ・スティールが歌うメローな主題歌 " コーリング・ユー " は、アカデミー最優秀主題歌賞にノミネートされ、80 組を超えるアーティストがカバーする大ヒット曲となり、今も歌い継がれる名曲となっています。今回の上映作品について、「シネマ・ド・りぶら」のお客様は、あまり情報をお持ちではないかもしれないので、メインキャストについての情報を少しだけ補足しておきます。

【マリアンネ・ゼーゲブレヒト】

バグダッド・カフェに現れ、住み付くドイツ人のオバさん「ジャスミン」役。1945 年 8 月 27 日生れのドイツ・バイエルン州出身の女優。『バグダッド・カフェ』の世界的大ヒット以来、国際的に活躍中。1992 年にはドイツ・フランス合作の『Martha et Moi』でヴェネチア映画祭の最優秀女優賞を受賞。

2014 年 3 月には最新作『バチカンで逢いましょう』を携え初来日し、東京・赤坂のドイツ文化会館センターで行われたイベントで「『バグダッド・カフェ』から何年もたって、新しい映画と共にお目見えできることをうれしく思います」と笑顔で挨拶した。彼女がドイツの肝っ玉母さん役で登場する作品『バチカンで逢いましょう』は 2014 年 4 月から全国で順次公開されヒットした。

【CCH・パウンダー】

当初、「ジャスミン」を敵視するが、やがて心を開くバグダッド・カフェの女主人「ブレンダ」役。1952 年 12 月 25 日生まれのガイアナ系アメリカ人女優。イギリスで教育を受け、1979 年に映画『オール・ザット・ジャズ』でデビュー。87 年の『バグダッド・カフェ』のブレンダ役で大役に抜擢され、以後多才な脇役として映画・ＴＶで多数の作品で活躍。歴代 1 位の世界興行収入を記録した『アバター（2009 & 2010）』では、ヒロインのネイティリの母親の巫女役を演じた。

【ジャック・パランス】

トレーラーハウスに住み、毎日カフェに顔を出す、ハリウッドからやってきたバンダナの似合うジイさん「コックス」役。1919 年 2 月 18 日 生まれのペンシルベニア州出身の俳優。両親はウクライナからの移民。1950 年にエリア・カザン監督に認められ『暗黒の恐怖』でデビュー。

1953 年『シェーン』で冷酷無残な薄ら笑いを浮かべる殺し屋ウィルソンを演じて一躍有名になり、以後独特のマスクと長身を活かして多くの作品で活躍。1991 年の『シティ・スリッカーズ』でアカデミー助演賞を受賞。2006 年 11 月 10 日、老衰のためカリフォルニア州の自宅で死去。享年 87 才。

【クリスティーネ・カウフマン】

カフェに長期滞在している一匹狼の刺青彫師「デビー」役。1945 年 1 月 11 日生まれのオーストリア・シュタイアーマルク州出身のドイツ人女優。7 才の頃から映画に出始め 1958 年『幼な心』で主演。

清純派美少女スターとして人気を誇り、1961 年ゴールデングローブ最優秀新人賞を授賞してハリウッドに進出。『隊長ブーリバ』で共演のトニー・カーティスと 18 才の若さで結婚。1968 年離婚後、女優に復帰し、映画、ＴＶ、舞台で活躍。自分のコスメティック・ブランドを持ち「ドイツで最も美しいおばあさん」と言われていたが、2017 年 3 月 28 日死去。享年 72 才。

「ミニシアター」って？　e3

ミニシアターは、日本の映画館のうち、ブロックブッキング（映画館と映画配給会社との間で結ぶフィルム貸借契約のうち、映画館が特定の配給会社の作品だけを上映することを内容とするもの）などによる、大手映画会社の直接の影響下にない独立的なものを指す呼称です。規模が小さく、座席数 300 以下のものをいう場合が多く、単館劇場ともいいます。

1968 年に設立された岩波ホールの総支配人だった高野悦子と、彼女を支えた東宝東和の川喜多かしこが、1974 年にエキプ・ド・シネマ（フランス語で「映画の仲間」の意）をスタートし、ロードショー公開されない世界中の良作を上映する運動を始めたことがミニシアターの始まりだそうです。1980 年代中盤にヌーヴェルヴァーグの作品群や『ニュー・シネマ・パラダイス』『ベルリン・天使の詩』などのヨーロッパ映画を上映することで、ミニシアターブームと呼ばれる現象が生まれました。

岡崎には、現在「イオンシネマ」と「シネプレックス岡崎」の 2 館の映画館がありますが、どちらも大手のシネコンで、上映作品が重なっている場合も多く、それ以外の上質なドラマ的な映画を見たいと思うと、名古屋の「名演小劇場」や「伏見ミリオン座」まで出かけていくこともしばしばあります。アカデミー賞の作品賞を取った作品も、案外シネコンでの上映がない場合も多いのです。また、ミニシアター上映での評判で、その後にシネコンでの上映に至るということもあります。

『バグダッド・カフェ』
―― なぜ、“ バグダッド ” なのか？

http://ameblo.jp/nirenoya/entry-10427879638.html
「げたにれの “ 日日是言語学 ”」から抜粋

バグダッドは 1900 ～ 1910 年のあいだは、金鉱を経営する「オレンジ・ブロッサム・マイン」の城下町として繁栄しましたがm 1918 年 に大火があり、ほとんどの建物が焼失してから町の凋落（ちょうらく）が始まり、1930 年代末には数棟の建物しか残っていなかった、と言います。

撮影が行われたのは、バグダッドからバーストーに向かって 4 つ目の町、ニューベリー・スプリングスでした。ロケに使われたのは「サイドワインダー・カフェ」the Sidewinder Cafe という実際に営業しているカフェでした。この映画がヒットしたあとで、Sidewinder Cafe は、名前を Bagdad Café と変えて営業しているようです。

ニューベリー・スプリングスは、今でも、4,000 人の人口をかかえる、ゴーストタウンになることを免れた町です。その町で、Route 66 に面したのがこのカフェでした。もっとも、映画で見るとおり、店の後ろは新道の Interstate 40 です。この店は旧道と新道に挟まれたハザマの土地に建っているんです。

ペルシー・アドロン監督は 1980 年代当時、奥さんとともに、たびたび米国中をクルマで旅していたそうです。当時のインタビューでは、役者としてロサンゼルスで亡くなった伯父さんに関する映画　“Louis with a Star” を撮りたい、と話していたようで、彼がアメリカに惹かれたのも、亡き伯父さんの記憶のセイかもしれません。

1985 年（昭和 60 年）のクリスマス、アドロン一家が、あの映画の舞台となったあたりをクルマで旅行している際に、地図に Bagdad という地名を見つけました。しかし、いくらその町を探しても見つからなかった。もちろん、すでに廃墟になっていたからです。

そのあとで、立ち寄った “ サイドワインダー・カフェ ” に、あの映画の絶好のセッティングを見出したのでした。つまり、旅行者として、偶然、映画のタネを見つけてしまったんですね。しかし、単なる偶然とも言えないのかもしれません。

生まれ故郷のドイツをあとにして、単身、ハリウッドに渡り、“ アドロン公爵 ” を名乗りながら、短い生涯に 30 本の映画に端役として出て、名を成さずに終わってしまった伯父さんが、彼を呼び寄せたのかもしれないのですね。

『ミニシアター巡礼』	代島 治彦／著	大月書店	778.09
『ミニシアターフライヤーコレクション』		ピエ・ブックス	778.2
『ミニシアターフライヤーコレクション 2』		ピエ・ブックス	778.2
『ミニシアター・ガイド』		エスクァイアマガジンジャパン	778.09
『ミニシアターグラフィック S』		ピエ・ブックス	778.09
『ミニシアターグラフィックス 2 単館映画のヒットを生み出す宣伝ツール特集 』		ピエ・ブックス	778.09
『エキプ・ド・シネマの三十年』	高野 悦子／編	講談社	778.067

2/16 「會議は踊る」の感想

・初めてこの映画を観ました。りぶらの映画も初めてでした。この企画をありがとう。とても楽しい映画でした。衣装にとても興味を持ちました。子どもたちも可愛かったです。
・クリスティーがかわいかった。歌が楽しかった。題名は昔から知っていたが、楽しく見させてもらいました。
・影の人物を使っているのには納得した。現実でもありうる。政治は適当にやっている。真剣にはやっていない。
・音楽・ダンス、戦争のつかの間を楽しんでいた時代。コミカルでおもしろかった。
・楽しくて声を出して一緒に歌いました。
・若い娘のただ一度の恋。懐かしい思い出です。
・有名な「唯一度だけ」の曲。楽しくみました。
・とても楽しかったです。昔に観た時のことを想い出しました。ありがとうございます。
・面白かったです。踊りがよかった。
・古い映画であるが、非常に面白かった。
・あり得ないと思いながら、とても楽しかったわ。
・ストーリーが面白くない。非現実的。
・たいへんおもしろかった。又喜劇をよろしく。
・チャンバラをお願いします。
・古い映画でした。車イスの方が、もっとまんなかで見られるような配慮があってもよいのでは？ → 検討します。
・ケイタイをずっと見てる人がいた。、その光が目に入り眩しかった。また足を前の席にかけていた。
・楽しく鑑賞しました。ありがとう！

上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。
また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。

今年度の上映についてのご案内（上映日および上映作品は変更になる場合があります）

第 58 回　6 月 22 日（木）『たそがれの維納』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	③ 18:30 ～
第 59 回　8 月 24 日（木）『あん』（字幕付き邦画）	① 10:30 ～	② 14:00 ～	③ 18:30 ～
第 60 回　9 月 21 日（木）『自転車泥棒』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	
第 61 回 10 月 19 日（木）『荒野の決闘』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	
第 62 回 12 月 21 日（木）『みじかくも美しく燃え』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	
第 63 回　1 月 18 日（木）『バルカン超特急』（再上映）	① 10:30 ～	② 14:00 ～	
第 64 回　2 月 15 日（木）『黒いオルフェ』	① 10:30 ～	② 14:00 ～	

平日の昼間には参加できない方たちのために、来期は現行の「午前の部」「午後の部」に加えて、「夜間の部」を予定しました。6 月と 8 月の上映の結果を踏まえ、その後の検討に入ります。

サロン・ド・シネマ

ホールホワイエにて

寄付金でお茶菓子を提供します。
映画の上映前にご利用ください。

6 月～ 9 月は、ホワイエが大変暑くなるため、サロンの開催をお休みさせていただいています。水分の補給等、各自でお願いいたします。

賛助サポーターとご寄付のご案内

賛助サポーターは、年度更新となります。総会のご案内と共に更新のご案内を同封いたしますので、よろしくお願いいたします。なお、ご寄付は随時受け付けておりますので、スタッフにお申し出ください。

「シネマ・ド・りぶら」映画上映会（第 57 回）

類猿人ターザン

TARZAN, THE APE MAN

アフリカ大陸の奥深い密林で動物たちに育てられた裸の若者ターザンは、猿のように身軽に木から木へジャンプする。 原始的な生活を送り、雄叫びは密林にこだまし、ライオンと格闘してねじ伏せ、象の群れを率いて象牙を狙う白人探険家と戦う。オリンピック水泳自由形チャンピオン、ジョニー・ワイズミュラーがジャングルの王者・ターザンを演じた冒険活劇。

監　督：W・S・ヴァン・ダイク二世
原　作：エドガー・ライス・バローズ
出　演：ジョニー・ワイズミュラー
　　モーリン・オサリヴァン
　　ニール・ハミルトン
　　C・オーブリー・スミス
製　作：1932 年 アメリカ
上映時間：99 分

※ 動物の扱いやストーリー展開など、現在の認識に適さない場面があることをご了承下さい。

★日　時　**5 月 25 日（木）**

① **10:30 ～ 12:10**　開場：10:00

② **14:00 ～ 15:40**　開場：13:30

託児：500 円
（各回 5 名まで）
申込みは、
1 週間前までに。

★場　所　りぶらホール

★定　員　各回 280 人（入場無料・全席自由）

★主　催　岡崎市立中央図書館
　　りぶらサポータークラブ

★問合せ　TEL ：23-3114 ／ 070-5252-7263
　　mail：lsc-office@libra-sc.jp